

諸國風俗

千島土人の唄

在函館 鈴木一二六

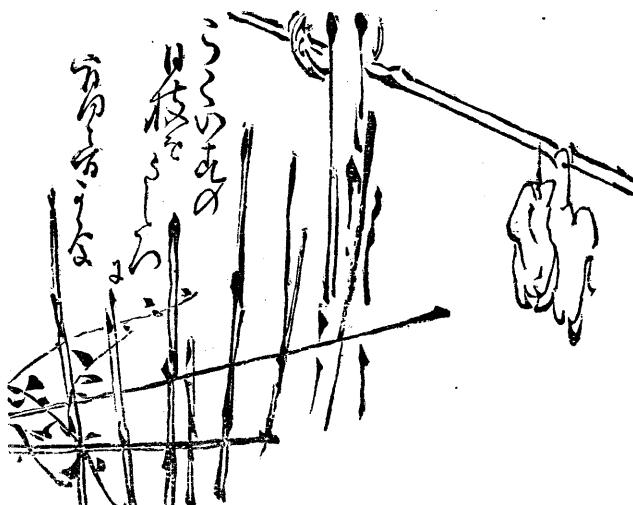
びりか、めのこととなせのむくろ、にしやたばしころ、
ちすこらち。

斯は余が昨年擇捉島探見の折シベトロと云ふ所にて
耳にせる『いぬ』の唄にしてその解は、
『びりか』は奇麗或は美、『めのこ』は土女、『となせのむ
くろ』は同衾、『にしやた』は明日、『ばしころ』は鳥、
『ちすこらち』は泣き別れ等にしてこれを綴れば、
『されいなおなごと』は一ツに寐ても明日は
鳥のなきわかれ』てふ意となるなり。
おいでさん、おばんになつたとこしをかけ、あねこ、
あべちゃん、てツこひけば、ちにみられて、さもや
かれ。

愛宕神社あぐたい祭

常陸 岡田草 煙生

はるか古事記にして土言ならず、その解は、
『おいでさん』はよく來たといふこと、『おばん』はお晩
なり、『あねこ』は姉さんと云ふ意娘子なり、『あべちゃん』
は來れのこと、『てツこ』は手なり、『ち、』は母なり、『き
もやかれ』は叱られたとの意なり。(あとは追ひへ)



朝夕二回の水沐浴をなす、而して十三日の夜二時、十
三天狗は覆面白衣にて餅をつき、供物となす、十四日
午後八時頃よりは神宮及び十三名
の天狗は白衣を着け高下駄にて青
竹を持ち、山中に鎮守ましますも
ろくの神社に供物をなし祭りを
なす、夫より本社の祭となる、祭
の始まる前に近在の若者は我れ先
と神社の庭内につめ、かゞり火を
焚き庭の上にて獨酒を呑み、まけ
をとらじと、悪くたいを吐く今其
の一例を爰に示さんに、參詣する
人を見ては『貴様、青錢の二文や
三文あげたとて何の信神になる、
貴様の妻は食うに食はれないで脊
戸の松の木で首く、りをした、早
やく行け、此の大馬鹿野郎』と云ば、參詣人も又惡口
を以て此に答ふ、實に毎年の熟練なればその巧みなる

には驚くに堪へたり、されど昔より喧嘩もなければ巡
査も之れを制する事もなし。
彌々祭禮の當日となれば御燈明
及びかゝり火商人の店の燈火まで
消し、惡口を吐きし若者連も皆な
無言なり、今其の式のあらましを
云はんに神宮は神社に供物を運ぶ
十二名の天狗は青竹を持ちて此れ
を守護す、其の供物を盜みたる人
は運がよいとて各々かくれて盜
まんとす、十三名の天狗は此を見
れば青竹を以て盜人の脊中をた、
く、た、かれても盜む人あり、天
狗の青竹を祭り終る頃には割竹と
なる以て充分盜人をたぐ事を知
るべし、祭終れば惡口又もとの如
くす、祭まつたく終るは夜の明方なり、實に不思議の